

1 あやのさん（小学6年生）



作品名「アザラシの赤ちゃん」

作者の言葉

雪の上で休んでいるアザラシの赤ちゃんです。かわいく見えるように目を大きく描いたり工夫しました。顔を描くのが特に難しかったです。また、全体が薄い色だったのでアザラシの赤ちゃんがしっかり見えるように色使いに気をつけました。

学芸員からのコメント

「こっちを見て」と言わんばかりのつぶらな瞳から、あやのさんのアザラシの赤ちゃんへの優しい気持ちがうかがえます。ふっくらとしたその形を的確に表現し、ふわとした柔らかさまで感じさせるところには、対象を見つめる鋭い眼差しと、それを遺憾なく発揮する写実性を認めることができます。

空(？)、アザラシ、地面(雪原)からなる、一見すると単調な構図ですが、画面中央に顔がくるようにアザラシを大きくとらえつつ腰から下を描かないことで、画面の右側にも空間が広がっていることを想起させます。アクセントとなる色を使えると構図の単純さは容易に解決できたでしょう。しかし、雪と同じ白いアザラシの赤ちゃんを描くためには淡い色彩で表現せざるを得ず、色紙というほぼ正方形の画面を生かした構図のセンスの良さの表れといえます。



木村武山「烏骨鶏」

明治から昭和にかけて活躍し、動植物を描くのを得意とした画家に木村武山がいます。笠間の生まれで、明治39年には岡倉天心の誘いで五浦に転居した日本画家です。武山の「烏骨鶏」は羽毛の軽やかさまで表現する写実的描写によって、羽毛に包まれた鳥の温かさまで表現されています。あやのさんの作品には武山作品にも通じる写実性、描写力が備わっているように思います。